

令和7年度 学校「学ぶ力」育成プログラム【様式例】

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：21004

実態	「学ぶ力」	
	これまでの 成果	課 題
	◇一人一台端末の活用によって学びきっかけを自ら生み出したり、主体的に学び続けたりすることができた。 ◇体育、学活、総合的な学習の時間、スタートカリキュラムの整備を行い、各学年の単元計画に位置付け計画的な学習を行えるようにした。 ◇教科の学習の導入等でデジタルシティズンシップ教育を取り入れ、ICT 活用の土台づくりを行った。	◇振り返りの方法が多様である中で、児童の実態に応じた適切な振り返りの在り方や具体的な手だてを検討していく必要がある。 ◇主体性を育むために学びを委ねるだけでなく、適切な問い返しや学びを深めるかかわりの検証が必要。 ◇子どもに学びを委ねるには、「～したい」という意欲を生み出す姿が必要であり、そのための環境や経験、関わり方を工夫する必要がある。
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題		
◇自らの目標に向かって取り組み、他者との関わりをもとうとする姿が見られるようになってきている一方で、自分のよさや成長を肯定的に捉えることができない児童がいる。また、挑戦する意欲や粘り強く努力することにも課題がある。キャリアパスポートの取組などを生かし、自らのよさや成長を振り返る機会の充実を図りたい。また、自ら学びの意味や価値を見いだしていくことができるように個々への関わりを大切にしていけることが必要である。		

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

自ら学びの意味や価値を見だし、学びに向かう力

取組	AAR サイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自治的な活動の充実
	◇目指す児童像「自ら～したいを生み出す子」 ◇目指す授業像「子どもが主役の授業」 ◇目指す教師像「伴走者である教師」 目指す児童像に向けて経験するべき6つの姿（視点） ・自ら目的をもつ姿・自ら課題を見付ける姿 ・自ら見通しをもつ姿・自ら方法を考える姿 ・自ら広げ、深める姿 ・自ら振り返り、次につなげる姿	◇行事や児童活動を「自分たちで創る」 ・「クラブ設置呼びかけウィーク」（4月末）・「プレ委員会」 ・「委員会をつくろうプロジェクト」（2月末） ・各行事で児童がイベントを企画、運営する ・憧れと思いやりを育む異学年交流（ふれあい活動） ◇自分たちの取組のリフレクション ・全校朝会后にキャリアパスポートを活用し、振り返りを設定 ・2期4節の月目標を自分事としてとらえる

〈本プログラムの実行に向けて〉

